

巻頭言

高松赤十字病院紀要第4巻の発刊にあたって

高松赤十字病院 院長 網谷 良一

この度『高松赤十字病院紀要 第4巻』を発刊することになりました。

従来から「高松赤十字病院事業運営5カ年計画（平成26～30年度）」の中の重点項目の一つとして「院外への情報発信の推進」を掲げ、これまでも折に触れて学会発表や論文発表を奨めてきました。当院では幾つかの広報誌や他の様々な媒体を通じて院内外への情報発信に努めていますが、この『高松赤十字病院紀要』もその一環であり、当院における医療の現状の一端を紹介する目的で院外の多くの医療機関等へも毎年送付しています。もちろん当院の職員間での情報共有を図るための重要な役割を担っています。

今回は原著論文、症例報告など14編の論文が寄せられました。創刊以来、最も多くの投稿数です。職員の皆さんの本誌への関心の高まりとご協力に感謝します。院外の医療機関へも十分にアピールできる興味深い論文ばかりで、当院の職員の皆さんには是非一度読んでいただくことをお勧めします。

巻頭に、西村医療安全推進室長（副院長）から医療安全推進室の役割と長年に亘る各種取り組みとその成果について詳細な報告が為されており、当院の現況が浮き彫りにされています。「医療安全の推進」は職種を問わず全ての職員にとって日常業務において常に念頭に置くべきテーマであり、本論文では「医療安全の推進」のための院内体制の現状と今後の方向性などについて有益な見解が述べられています。今回は診療科からの論文に限らず、看護部、放射線科部、検査部、医療技術部など多く部門からの実地の診療・看護の現場に根ざした興味深い原著論文や臨床報告が掲載されています。日常の医療にすぐさま役立つ知見を含んだものや、今後の大きな発展が期待される論文ばかりです。例年に増して多数の論文掲載となり、嬉しい限りですが、次回にはさらに奮って多くの論文が投稿されることを大いに期待しています。

これからも『高松赤十字病院紀要』はもちろんのこと、和文・英文を問わず、それぞれの職種、領域の専門雑誌にも積極的に発表されることを期待しています。